

# 会 議 録

- 1 会議名 平成 30 年度第 1 回上越市スポーツ推進審議会
- 2 報告事項 (公開)
  - (1) 平成 29 年度スポーツ推進事業実績について
  - (2) (仮称) 上越市体操アリーナ整備の進捗について
  - (3) 平成 30 年度東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業について
  - (4) 総合型地域スポーツクラブの設立に係る進捗状況について
- 3 議題 (公開・非公開の別)
  - (1) 平成 30 年度スポーツ推進審議会分科会の開催報告及び提案について (公開)
  - (2) その他 (公開)
- 4 開催日時 平成 30 年 7 月 12 日 (木) 午後 3 時から 4 時 15 分まで
- 5 開催場所 教育プラザ事務所棟 2 階 202 会議室
- 6 傍聴人の数 0 人
- 7 非公開の理由 なし
- 8 出席した者 氏名 (敬称略)
  - ・委員 : 土田了輔、小野島恵次、亀山浩、齋藤隆雄、高橋達也、佐藤一徳、和栗勝美、森田昭彦、春日清美、滝本篤透、倉石義行、川澄陽子、高野幸夫、加藤國治
  - ・事務局 : 田中課長、石澤参事、白石副課長、米川副課長、山崎係長、田村主事、佐久間生涯スポーツ指導員、石黒指導主事 (学校教育課)
- 9 あいさつ  
【土田委員長】

今年度初めての試みとして、分科会方式で「障害者・生涯スポーツ」「学校体育・競技スポーツ」の 2 分科会で十分にディスカッションしました。今回は、それを受けた第 1 回審議会であり、別々の場で議論いただいたそれぞれの内容をこの場で確認し、さらに十分議論していただきたい。よろしくお願ひしたい。
- 10 報告事項
  - (1) 平成 29 年度スポーツ推進事業実績について、山崎係長が資料 1 に基づき説明。

**【滝本委員】**

ジュニアトップアスリート育成強化事業の指定種目は何か伺いたい。

**【山崎係長】**

陸上競技、野球、バレーボール、スキー、山岳、体操の6種目である。

(2) (仮称) 上越市体操アリーナ整備の進捗について、田中課長が資料2に基づき説明。

(3) 平成30年度東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業について、米川副課長が資料3に基づき説明。

**【齋藤委員】**

空手道の合宿誘致活動についてだが、5月に連絡がとれたその後の進み具合を教えてください。その後、連絡が無いということだが、他県からも多く誘致があると思う。上越市はどの程度まで話が進んでいるのか、教えていただきたい。

**【米川副課長】**

ドイツ空手協会から、日本空手協会を通して上越市へ連絡をいただいた。その後、当市の合宿受け入れ条件等をメールさせていただいた。10月に大会があり、その際にぜひ上越へお越しいただき、土地柄や県立武道館の着工状況について、現地視察をしていただきたいという旨も伝えたが、その後の返答はない。ドイツ空手連盟に視察に来てもらえるのか、状況を確認したい。

**【齋藤委員】**

直接、ドイツ空手連盟とやりとりをしているのか。

**【米川副課長】**

直接やり取りをしています。

**【齋藤委員】**

そこで話の進展がないとき、日本空手協会が中に入っているのか。

**【米川副課長】**

5月の初回は日本空手協会に中に入っていた。それ以降は、確認させていただいたアドレスで、直接ドイツ空手連盟と連絡を取り合っている。

**【齋藤委員】**

以前、ドイツ空手連盟の誘致に対して、上越市として援助がどこまでできるのかが、はっきりしていなかった。

【米川副課長】

その件については、回答をしています。

【齋藤委員】

それについて、私どもは聞いていなかった。日本空手協会も聞いていない。日本空手協会に、どうなっているか確認したところ、そちらの返事待ちであると言われた。直接、ドイツ空手連盟と連絡が取られたならばよかったが、もし、途切れているのならば、空手協会を通して、もう1回連絡をとるなどの対策をしてほしい。

【米川副課長】

日本空手協会への連絡をしていなかったなので、連絡を取ってみたい。日本空手道協会と連絡を取りながら、こちらからも、直接ドイツへオファーしたいと考えている。

【土田委員長】

資料では、交渉を進めて行くとなっているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

(4) 総合型地域スポーツクラブの設立に係る中郷区の進捗状況について、山崎係長が資料4に基づき説明。

【亀山委員】

種目としては何か。

【山崎係長】

種目の限定はない。区内の様々なサークルであり、文化系もある。

【滝本委員】

まちづくり振興会の一部会となる位置付けとのことであったが、SCネットとして絡んで行きたいので、お話をこちらにも回してほしい。

【山崎係長】

承知した。

## 1 1 議題

(1) 平成30年度スポーツ推進審議会分科会の開催報告及び提案について、土田委員長が資料5に基づき説明。

【土田委員】

障害者・生涯スポーツ部会について説明

【高橋委員】

提案1のスポーツイベントの開催について、具体的な今後の予定はあるか。年内の開

催はあるか。また、提案 2 のすべての市民がやりたいときにスポーツができる環境整備とは、どんなことを行っていくのか、案があれば伺いたい。

【倉石副委員長】

これから具体的にどんな計画にするか、考えていく。

【高橋委員】

具体的な提案についても、分科会で考えていくのか。

【土田委員長】

今回説明させていただいた内容を教育委員会に提案書として提出させていただきたい。今後、具体案を詰めさせてもらう。どんなことをやるか、いくつかあげていただきたい。

【佐藤委員】

障害者スポーツ・障害スポーツを理解してもらって、促進を図るというものだが、要望になってくると思う。指導者の確保をどんな立場で臨むか、そこまで詰めてもらいたい。

【土田委員長】

分科会では、具体的に活動している団体名、種目名が上がっていた。いまの段階で、幾つかの団体が協同してやっていけるとの話があったが、分科会に参加しておられた委員の皆さんから意見はありませんか。

【滝本委員】

提案 1 と 2 に共通して言えることだが、既存の団体がすでに実施していることを広く知っていただくことが必要。佐藤委員が仰った指導者の確保は、障害スポーツ・生涯スポーツにとっても必須である。それがベースでそれぞれ運営されていく。

イベントは、それぞれが行っているものに乗入れする形で実施していく方向で協議されていたので、そのように出来ればよい。

【土田委員】

イベントをコラボしてやっていくという話の中で、今までそういった機会が無かったと言う話が合ったので、既存の機会を活用するという内容であった。

【土田委員】

続いて、競技スポーツ学校体育部会について説明

【滝本委員】

学校の部活動との連携は早急に取り組む必要がある課題である。

小中高一貫体制による指導で、競技力の低下を抑えることができるのか。これには証明できるような指針や、数値としたものはないと思う。小中学校にしかない種目を高等学校につくることを考えていくという考え方もあると思うが、本当に、一貫体制でなけ

れば、競技力の向上を図れないのかどうか、説明をお聞きしたい。

**【土田委員】**

分科会に参加しておられた委員の皆さんの中で、小中高一貫指導について説明された方、お願いします。

**【佐藤委員】**

競技実績が上がっていかないと子供たちの目はその競技へ向かない。競技者は一般の地方では高校がトップだが、全般的に指導者が不足している現状がある。種目ごとに、小中学校から高校までつなぎ更に大学等に進学にし、競技実績を上げて地元に戻ってくる。こういうルートをつくらないと、指導者が高齢化していき、やがて競技力の低下と競技人口の減少を招き衰退していく。このようなことを防ぐ意味でも、地域に数多くある高等学校に専門的な種目を持つ学校があってもよい。行政とクラブ等が連携をとって、できるだけ種目毎に一体化した強化を図って行くべきである。競技レベルが上がって行くと、それを見ている子供たちが競技を始める動機付けとなり、その競技が盛んになっていく。そのような好循環を創生したい。

また、進学して種目を変更する子供たちもいるが我々の種目は、基礎体力を高める指導をしているので、生徒の趣向に合わせて進路変更することも認めている。種目変更をしても新たな自分の可能性を伸ばしていける、そのような小中高の流れを作っていくべきだと思う。

**【土田委員長】**

他の分科会においでになった委員のみなさんはいかがでしょう。

**【小野嶋委員】**

高等学校の立場から現状として、報告を一点し、問題提起をさせていただきたい。スポーツ庁からの運動指針が出され、新潟県立の高校では、すでに年間 100 日以上、土日は 50 日以上の部活動の休養日を取るように、という指示が出ている。県教委からは、極めて厳しい指導がなされており、すでに各高校では、それぞれ年間 100 日以上、土日は 50 日以上の休養日を入れた部活動運営計画を県教委へ提出している。上越市も、教育委員会が中学校に対して同様の指導がなされると聞いている。国をあげて、競技スポーツの振興については、学校体育から社会体育へという大きな流れになっており、公立学校での競技力の向上については極めて厳しい状況下にある。トップアスリートの養成となれば、継続的に練習時間を確保していくことがどうしても必要になり、小中高一貫指導体制の整備はどうしても望まれると認識している。上越市として小中高一貫した指導体制の施策を具体的に打っていただければ、ありがたい。

**【土田委員長】**

いかがでしょう。

それでは、以上の内容を審議会提案書としてよろしいでしょうか。また、提案書の作成を一任いただけますでしょうか。

**【委員一同】**

異議なし

**【土田委員長】**

それでは、以上の内容を提案書として提出いたします。

(2) その他

**【土田委員長】**

その他について、なにかございますか。

**【田中課長】**

本日の資料をもとにご提案をいただく形と思う。先ほどからお話がでていますが、おそらく個人でもっと具体的なイメージをお持ちの方もいると思う。そういった皆さんの思いを吸い上げて実現できる場所は、実現していきたい。時間がかかる取り組みもあるだろうし、予算を伴うものとなれば、我々だけでは決定できないが、精いっぱい頑張っていく。皆さんの引き続きの協力をいただかなければ、成しえないものもある。特に、競技スポーツについては、学校体育から社会体育への取り組みの流れに乗るためには、社会体育となる受け皿との連携が必要だと考えている。慎重かつスピード感をもって、真摯に取り組んで参りたい。

1 1 その他

**【白石副課長】**

ご意見等ございますか。何かあればいつでもスポーツ推進課事務局へご連絡いただきたい。よろしく願いいたします。

1 2 閉会のあいさつ

**【倉石副委員長】**

お疲れ様でした。今年初めて分科会を設けましたが、無事に提案の趣旨がまとまりました。先ほどもご質問がありましたとおり、どうやって実現していくのかということについては、担当課と協議し推進していく必要があります。審議会として、具体的なことについて、もう少し詰めるところや新たな提案があった場合、分科会を開催していただきたい。ご意見や提案があれば、スポーツ推進課へご連絡ください。

本日はどうもありがとうございました。

1 3 問合せ先

教育委員会スポーツ推進課企画推進係

TEL : 025-545-9246 (内線 616-1330)

E-mail : sports@city.joetsu.lg.jp